

# 「春の祝福」

文と写真 敷田麻実 (野生生物保護学会会長)

北国の暮らしでは、「今日から春だ」と言いたくなる暖かな日ざしの日がある。寒い日が続いた翌朝に、どことなく自分を祝福してくれているような陽射しに出会い、冬が終わりつつあることを確かめるのだ。

しかし、このところの暖冬で、札幌でも春日を二月に体験することが多くなった。寒い地方での春の予感はいずれしいのだが、春の到来は人によって感じ方が違うだろう。

人が感ずる春のきざしはさまざまだが、特に春泥の臭いに懐かしさを憶えるのは、私が北国の田舎町で生まれ育ったからだ。小学生の私は、田舎道を友だちと歩きながら、学校帰りの春を楽しんだ。北国の春は、ぬかるむあぜ道や田畑の土の臭いと一緒にはやってきた。

日々「百年に一度の危機」と繰り返される中で、社会に閉塞感を感じ、ともすれば内向きとなる私たちのふるまいだが、それでは冬が長くなるばかりである。

それよりも、幸福感に浸れる春をとともに祝福しようではないか。暖かな日ざしの春は、他者に心を開く季節でもある。

宴うたげは今日から始まる。

